

個人名に対する印象と人物像の整合性について

The Congruence between the images of individuals and their names

宿利 由希子[†]
Yukiko Shukuri

[†]神戸大学国際文化学研究所

Graduate School of Intercultural Studies, Kobe University

shu9ri@gmail.com

Abstract

Unreadable eccentric names, called “Kira-kira names”, tend to be regarded as causes of the social bad influences such as being bullied or getting trouble finding jobs in Japan. Does it mean that name itself makes good or bad impression on people and make them judge the owner of the name? This study investigates the following questions, focusing on the congruence between the images of individuals and their names; (1) do native Japanese evaluators commonly judge individuals by their Kira-kira and non Kira-kira names?; (2) do the evaluators diminish their estimation of the individuals whose names are judged unsuitable for their ages or jobs? The result suggests that the evaluators tend to judge individuals not only with Kira-kira names, but also with non Kira-kira names, by their names; the evaluators tend to diminish their estimation of the individuals, especially when their names are non Kira-kira names and judged unsuitable for their ages or jobs.

Keywords — Kira-kira names, non Kira-kira names, impression evaluation, individual images

1. はじめに

人が固有の名前を持つことは、社会的存在であることの要件である[1]。人名には、その人間自身を示す名前（「姓名」の「名」、以下「個人名」と、その人間の所属する集団を示す名前（「姓」「氏」「名字（苗字）」など）がある[2]。

個人名は、持ち主の社会的アイデンティティを表し、その社会生活に影響を与える。アメリカでは、個人名の名付けの傾向は白人と黒人で異なり、白人または黒人らしい名前が社会生活に影響を及ぼすといった事例が報告されている[3]。日本語社会においても、奇抜な個人名が就職活動に不利に働いたり[4]、個人名が原因でいじめられたり[5]するといった、個人名の社会生活への影響が指摘されている。特に、2000年前後からメディアに取り上げられるようになった、読めないまたは常識的には考えられないような奇抜な個人名（以下、「キラキラネーム」）への社会的評価は低い[6]。

しかしながら、人は個人名のみからその個人名に何らかの印象を持ち、個人名の持ち主を評価しているわけではない。英語圏における第一印象に関する研究で

は、個人名は対人評価に影響を与えるが、顔や髪型といった他の情報よりも影響力が低いとされている[7][8]。また、顔の印象と個人名の印象が一致していると判断された人への評価は、そうでない人への評価より高くなるという報告もある[9]。日本における研究では、キラキラネームの持ち主はリーダーシップが低い人物であると判断されるが、特に見た目のリーダーシップが高い人物や高齢者がキラキラネームの持ち主だった場合にリーダーシップの程度を低く評価されており、見た目と個人名の印象の不整合による影響が指摘されている[10]。これらの先行研究から、個人名とその持ち主の人物像との整合性によって、個人名の持ち主が評価されていると考えることができる。

では、個人名との整合性が問題となるのは見た目だけなのだろうか。本研究は、上述の研究および、個人名や職業情報と顔記憶に関する研究[11][12]を参考に、個人名の持ち主の人物像の中でも特に年齢と職業を取り上げる。個人名の印象とそれらの整合性に注目し、以下の2つの疑問点を明らかにすることを目指す。疑問点1：日本語母語話者はある個人名（キラキラネーム、非キラキラネーム）から共通した人物像（年齢や職業）を連想し、共通した印象評価をするのか。疑問点2：個人名から連想した人物像と、実際の年齢・職業に整合性がないと、その人物への評価は下がるのか。この2つの疑問点について、日本語母語話者を対象にアンケート調査を行い、特定の個人名とその持ち主が低評価を受ける理由について考察する。

2. 調査概要

本研究は大きく分けて、調査1：年齢と職業を特定せず個人名を提示し、その個人名の持ち主の印象について評定してもらう事前情報無し条件と、調査2：「50代大学教授」という年齢と職業に関する事前情報とともに個人名を提示し、同様に個人名の持ち主の印象を評価してもらう事前情報有り条件の2つの調査から構成するものとした。

被験者 18歳から27歳までの大学生、大学院生48名が参加した。調査1には男性11名、女性12名の計23名（平均年齢19.4歳， $SD=0.72$ ），調査2には男性13名、女性12名の計25名（平均年齢21.2歳， $SD=2.29$ ）が参加した。

個人名刺激 明治安田生命が毎年発表する赤ちゃんの名前ランキング[13]から、1982年以前にベスト5に入っていた中高年世代に多い男性名「清（きよし）」、女性名「久美子（くみこ）」、1983年から2002年にベスト5に入った若者世代に多い男性名「健太（けんた）」、女性名「愛（あい）」、2003年から2016年にベスト5に入った子供世代に多い男性名「大翔（ひろと）」、女性名「陽菜（ひな）」を選んだ。また、キラキラネームに関する先行研究[14]でキラキラネーム例に選ばれたものから、響きが和風の男性名「楽（わく）」、女性名「初夏（わか）」、洋風の男性名「騎矢（ないと）」、女性名「玲海（れいあ）」を選定した。これら男性名5種、女性名5種の個人名に、頻度の高い10種の名字「佐藤」、「鈴木」、「高橋」、「田中」、「伊藤」、「渡辺」、「山本」、「中村」、「小林」、「加藤」を無作為に組み合わせた。予備調査および調査1、2では、名字と組み合わせた形で個人名を読み仮名とともに提示した。

評定方法 予備調査として、8名の日本語母語話者にこれらの個人名を提示し、連想する個人名の持ち主の年齢、職業、性格、外見などを自由回答で尋ねた。予備調査で得られた性格や外見に関する評価語と、人物の印象評定に関する先行研究[15][16][17]を参考に、本調査で用いる評価語として「男性的な—女性的な」「成熟した—未熟な」「まじめな—まじめでない」「誠実な—不誠実な」「軽薄な—軽薄でない」「怠惰な—怠惰でない」「知的な—知的でない」「礼儀正しい—無礼な」「自己中心的な—協調的な」「落ち着いた—落ち着きのない」「気の強い—気の弱い」「あたたかい—つめたい」「明るい—暗い」「活発な—活発でない」「おしゃれな—おしゃれでない」「気どった—気どっていない」の16対を設定した。

調査1では、まず男女10種の個人名刺激を提示し、それぞれの個人名から連想する個人名の持ち主の年齢と職業を自由回答で尋ねた。その後個人名の持ち主についてSD法により5段階で印象評定させた。調査2では、「50代大学教師」という事前情報とともに個人名を提示し、この年齢と職業が個人名の印象にふさわしいかどうか4段階で尋ねた。その

後SD法により印象評定させた。

3. 結果

個人名から連想する年齢・職業 調査1の年齢と職業に関する自由回答の結果、被験者が個人名からある程度特定の年齢や職業（・身分）を共通して連想することがわかった。被験者が個人名から連想する年齢と職業・身分について、1個人名に関する回答を合計100%として表1、2に示す。

表1 個人名から連想する年齢

	一桁	10代	20代	30代	40代	50歳～
清	0.0%	0.0%	4.5%	9.1%	31.9%	54.5%
健太	0.0%	18.2%	59.1%	18.2%	4.5%	0.0%
大翔	0.0%	86.4%	9.1%	4.5%	0.0%	0.0%
楽	30.0%	30.0%	25.0%	5.0%	5.0%	5.0%
騎矢	31.9%	59.1%	4.5%	4.5%	0.0%	0.0%
久美子	0.0%	0.0%	0.0%	14.3%	47.6%	38.1%
愛	0.0%	4.8%	66.7%	28.6%	0.0%	0.0%
陽菜	0.0%	57.1%	42.9%	0.0%	0.0%	0.0%
初夏	18.2%	36.4%	27.2%	9.1%	0.0%	9.1%
玲海	18.2%	63.6%	18.2%	0.0%	0.0%	0.0%

表2 個人名から連想する職業・身分

	～高校生	大学生	会社員	その他	
清	0.0%	0.0%	76.2%	23.8%	
健太	20.0%	5.0%	25.0%	50.0%	
大翔	65.0%	15.0%	10.0%	10.0%	
楽	41.2%	17.6%	11.8%	29.4%	
騎矢	73.7%	0.0%	10.5%	15.8%	
	～高校生	大学生	会社員	主婦	その他
久美子	0.0%	0.0%	4.8%	71.4%	23.8%
愛	5.0%	20.0%	45.0%	0.0%	30.0%
陽菜	40.0%	35.0%	15.0%	0.0%	10.0%
初夏	47.1%	5.9%	23.5%	17.6%	5.9%
玲海	55.0%	35.0%	5.0%	0.0%	5.0%

男性個人名について、「清」は50歳以上の会社員・サラリーマン、「健太」は20代、「大翔」と「騎矢」は一桁から10代の小学生から高校生という回答が半数を超えた。「楽」に関しては回答にばらつきがあり、特定の年齢も職業・身分も連想させないことがわかった。女性個人名について、「久美子」は主婦、「愛」は20代、

「陽菜」は10代, 「玲海」は一桁から10代の小学生から高校生という回答が多かった。「初夏」に関しては回答にばらつきがあり, 特定の年齢も職業・身分も連想させないことがわかった。

個人名の印象と年齢・職業の整合性 調査2の個人名の印象と「50代大学教授」という年齢および職業に関する事前情報との整合性について, 「合っていない:1」から「合っている:4」の点数の平均値と標準偏差を求めた(表3参照)。男性に関しては, 年齢・職業ともに「騎矢」, 「健太」, 「大翔」, 「楽」, 「清」の順に整合性が高くなった。女性に関しては, 年齢は「玲海」, 「陽菜」, 「初夏」, 「愛」, 「久美子」の順に, 職業は「陽菜」, 「玲海」, 「初夏」, 「愛」, 「久美子」の順に整合性が高くなった。

表3 個人名の印象と事前情報の整合性

	平均値 (標準偏差)			
	年齢		職業	
清	3.44	(0.82)	2.84	(0.94)
健太	1.52	(0.65)	1.64	(0.64)
大翔	1.68	(0.80)	1.80	(0.82)
楽	1.88	(1.01)	2.08	(1.15)
騎矢	1.04	(0.20)	1.16	(0.47)
久美子	3.80	(0.41)	3.64	(0.64)
愛	2.28	(0.79)	2.52	(0.87)
陽菜	1.36	(0.49)	1.36	(0.57)
初夏	2.20	(1.08)	2.16	(1.14)
玲海	1.28	(0.46)	1.44	(0.65)

因子分析 男性個人名, 女性個人名ごとに評価語対16項目について因子分析(主因子法, バリマックス回転)を行い, 因子負荷量の絶対値が0.40以上を示す項目を選出した。男女別に因子分析を行ったのは, 名付けに関する先行研究[18]により, 性別ごとに名付けに共通したイメージがあることが指摘されているためである。因子分析の結果, 男性個人名, 女性個人名ともに4因子ずつ抽出された。第4因子として男女で異なる因子が抽出され, 男性個人名と女性個人名の刺激間の印象の評価構造に違いが見られることが示された。男性個人名に関して, 第1因子を「信頼性」, 第2因子を「非勤勉性」, 第3因子を「活動性」, 第4因子を「非協調性」と命名した。また, 女性個人名に関して, 第1因子を「信頼性」, 第2因子を「活動性」, 第3因子を「非勤勉性」, 第4因子を「自己美化性」と命名した。得ら

れた因子負荷量表を表4, 5に示す。

表4 男性個人名の因子分析結果

	I	II	III	IV	共通性
まじめ	.79	-.42	-.09	-.11	.81
誠実	.69	-.50	-.02	-.10	.73
成熟	.65	-.25	-.14	-.01	.51
礼儀	.65	-.22	-.07	-.22	.52
落ち着き	.57	-.14	-.25	.30	.49
知的	.50	-.05	-.08	-.17	.29
怠惰	-.23	.78	.04	.07	.66
軽薄	-.38	-.74	.07	.17	.73
明るさ	-.15	.03	.81	.11	.69
活発	-.18	.08	.81	.19	.73
あたたかさ	.05	-.01	.66	-.09	.44
気の強さ	-.17	.08	.11	.68	.52
自己中心的	-.28	.40	-.03	.43	.42
因子寄与	2.86	1.87	1.86	0.93	7.52
累積寄与率	22.0%	36.4%	50.8%	57.9%	

表5 女性個人名の因子分析結果

	I	II	III	IV	共通性
まじめ	.89	-.07	-.15	-.06	.81
誠実	.82	.15	-.26	-.10	.77
成熟	.65	-.08	-.11	-.07	.45
礼儀	.59	.01	-.29	-.11	.45
落ち着き	.57	-.11	-.15	-.15	.46
知的	.57	-.07	-.21	-.11	.38
明るさ	-.11	.88	.06	.10	.42
活発	-.15	.74	.07	.21	.87
あたたかさ	.11	-.66	-.07	-.09	.61
怠惰	-.39	.02	.75	.06	.72
軽薄	-.46	.03	.71	.12	.73
気どり	-.19	-.01	.10	.91	.80
おしゃれ	-.12	.39	.05	.50	.38
因子寄与	3.33	1.95	1.35	1.22	7.85
累積寄与率	25.6%	40.6%	51.0%	60.3%	

分散分析 男性個人名について, 事前情報の有無(事前情報無し:調査1, 有り:調査2の2水準)×個人名(5水準)の2要因分散分析を行った。その結果, 「II. 非勤勉性」($F(4, 184) = 3.40, p = .010$), 「III. 活動性」($F(4, 184) = 2.56, p = .040$)に関して, 事前情報の有

無と男性個人名について有意な交互作用が見られた。これらの因子に関する得点の平均値を棒グラフにまとめたものを図1, 2に示す。エラーバーは標準誤差を示す。

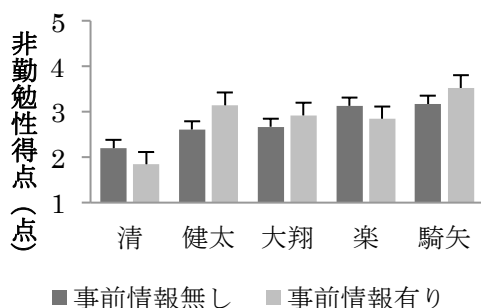


図1 男性個人名非勤勉性得点

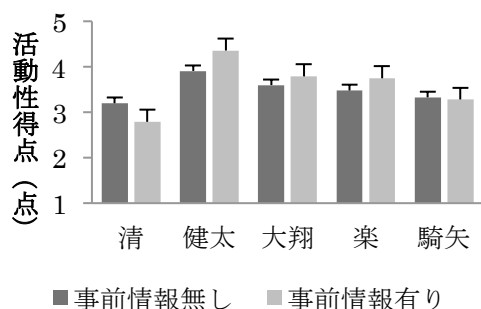


図2 男性個人名活動性得点

「II. 非勤勉性」について、事前情報の主効果は有意ではなかった ($F(1, 46) = 0.56, p = .460$) が、個人名の主効果は有意だった ($F(4, 184) = 20.74, p < .001$)。単純主効果検定を行ったところ、「健太」では事前情報の有無によって非勤勉性得点に有意な差が認められた ($F(1, 46) = 5.48, p = .024$) もの、他の個人名では事前情報による非勤勉性得点の差は認められなかった。個人名が事前情報無し条件に与える単純主効果が有意だった ($F(4, 88) = 9.29, p < .001$) ため、多重比較を行ったところ、事前情報無し条件における「楽」の非勤勉性得点は「清」「健太」「大翔」よりも高かった ($t(22) = 4.68, p = .001; t(22) = 3.12, p = .033; t(22) = 3.25, p = .029$)。また、「騎矢」の非勤勉性得点は「清」「健太」よりも高く ($t(22) = 3.88, p = .007; t(22) = 2.83, p = .049$)、「大翔」の非勤勉性得点は「清」よりも高かった ($t(22) = 3.14, p = .033$)。

「III. 活動性」について、事前情報の主効果は有意

ではなかったが ($F(1, 46) = 0.72, p = .400$)、個人名の主効果は有意だった ($F(4, 184) = 16.87, p < .001$)。単純主効果検定を行ったところ、「健太」では事前情報の有無によって活動性得点に有意な差が認められた ($F(1, 46) = 6.34, p = .015$) もの、他の個人名では事前情報による活動性得点の差は認められなかった。個人名が事前情報無し条件に与える単純主効果が有意だった ($F(4, 88) = 4.09, p = .004$) ため、多重比較を行ったところ、事前情報無し条件における「健太」の活動性得点は「清」「騎矢」よりも高かった ($t(22) = 3.17, p = .04; t(22) = 3.32, p = .031$)。

その他、交互作用が認められなかった第1および第4因子に関しても、男性個人名の主効果について検定を行った。その結果、両因子に関して男性個人名の主効果が認められた ($F(4, 184) = 52.83, p < .001; F(4, 184) = 8.85, p < .001$)。「I. 信頼性」における「清」の信頼性得点は「健太」「大翔」「楽」「騎矢」よりも高く ($t(46) = 11.83, p < .001; t(46) = 10.34, p < .001; t(46) = 10.69, p < .001; t(46) = 13.23, p < .001$)、「騎矢」の信頼性得点は「健太」「大翔」「楽」よりも低かった ($t(46) = 3.95, p = .001; t(46) = 4.49, p < .001; t(46) = 3.83, p = .002$)。「IV. 非協調性」における「騎矢」の非協調性得点は「清」「楽」よりも高く ($t(46) = 5.75, p < .001; t(46) = 3.22, p = .016$)、「清」の非協調得点は「健太」「大翔」よりも低かった ($t(46) = 3.64, p = .006; t(46) = 3.76, p = .004$)。

女性個人名についても、同様に事前情報の有無×個人名の2要因分散分析を行った。その結果、「III. 非勤勉性」 ($F(4, 184) = 2.59, p = .038$) に関して、事前情報の有無と女性個人名について有意な交互作用が見られた。「III. 非勤勉性」の平均値を棒グラフにまとめたものを図3に示す。エラーバーは標準誤差を示す。

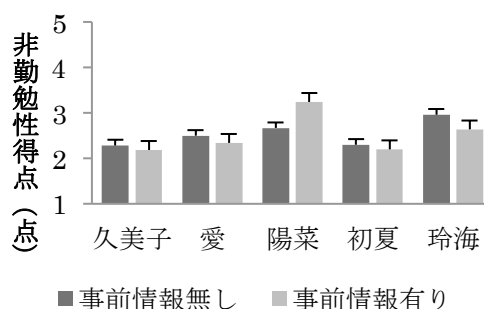


図3 女性個人名非勤勉性得点

「Ⅲ. 非勤勉性」について、事前情報の主効果は有意ではなかった ($F(1, 46) = 0.041, p = .840$) が、個人名の主効果は有意だった ($F(4, 184) = 2.59, p = .038$)。単純主効果検定を行ったところ、「陽菜」では事前情報の有無によって非勤勉性得点に有意な差が認められた ($F(1, 46) = 9.12, p = .004$) もの、他の個人名では事前情報による非勤勉性得点の差は認められなかった。個人名が事前情報無し条件に与える単純主効果が有意だった ($F(4, 88) = 3.34, p = .014$) ため、多重比較を行ったところ、どの女性個人名間にも有意な差は認められなかった。

その他、交互作用が認められなかった第1, 第2, 第4 因子に関しても、女性個人名の主効果について検定を行った。その結果、3 因子に関して女性個人名の主効果が認められた ($F(4, 184) = 2.59, p = .038; F(4, 184) = 9.04, p < .001; F(4, 184) = 12.86, p < .001$)。Ⅰ. 信頼性における「久美子」の信頼性得点は「陽菜」「初夏」「玲海」よりも高く ($t(46) = 12.01, p < .001; t(46) = 4.25, p < .001; t(46) = 7.83, p < .001$)、「初夏」の信頼性得点は「陽菜」「玲海」よりも高かった。Ⅱ. 活動性における「陽菜」の活動性得点は「久美子」「愛」「初夏」「玲海」よりも高く ($t(46) = 5.59, p < .001; t(46) = 3.11, p = .022; t(46) = 3.69, p = .005; t(46) = 4.07, p = .002$)、「愛」の活動性得点は「久美子」よりも高かった ($t(46) = 3.07, p = .022$)。Ⅳ. 自己美化性における「久美子」の自己美化性得点は「愛」「陽菜」「玲海」よりも低く ($t(46) = 4.04, p = .001; t(46) = 4.75, p < .001; t(46) = 6.71, p < .001$)、「初夏」の自己美化性得点は「陽菜」「玲海」よりも低かった ($t(46) = 3.16, p = .017; t(46) = 4.76, p < .001$)。

5. 考察

「4. 結果」から、「日本語母語話者はある個人名(キラキラネーム, 非キラキラネーム)から共通した人物像(年齢や職業)を連想し、共通した印象評価をするのか」と「疑問点 2: 個人名から連想した人物像と、実際の年齢・職業に整合性がないと、その人物への評価は下がるのか」について考察する。

まず疑問点 1 について、日本語母語話者は特定の個人名からある程度共通した年齢や職業を連想することがわかった。調査 1 の自由記述の結果、キラキラネームである「騎矢」「玲海」、非キラキラネームである「清」「健太」「久美子」「愛」からは特定の年齢や職業を連想する被験者が多かった。一方、キラキラネームであ

る「楽」「初夏」に関しては回答にばらつきがあり、特定の年齢も職業・身分も連想されないことがわかった。このことから、日本語母語話者はキラキラネームだけでなく非キラキラネームからも持ち主の年齢や職業を連想することがわかった。さらに、キラキラネームでも洋風の響きを持つものからは特定の年齢や職業を連想するが、和風の響きを持つものからは特定の年齢や職業を連想しない可能性が示唆された。また、日本語母語話者は特定の個人名の持ち主に対して、ある程度共通した印象評価をすることがわかった。男性個人名の主効果検定の結果、信頼性得点は「清」が高く、「騎矢」が低かった。非勤勉性得点は「楽」が高く、「清」が低かった。活動性得点は「健太」が高く、「清」「騎矢」は低かった。非協調性得点は「騎矢」が高く、「清」が低かった。男性個人名に関しては、キラキラネームの持ち主が非キラキラネームの持ち主より比較的 low に評価されており、先行研究の指摘を支持する結果となった。但し、2 種のキラキラネームを比較すると、洋風の響きを持つ「騎矢」の評価が和風の「楽」より低く、これが個人名の響きによる違いなのか、別の原因によるものなのか、本研究の結果から述べることはできない。女性個人名の主効果検定の結果、信頼性得点は「久美子」が高く、「陽菜」「玲海」が低かった。活動性得点は「陽菜」が高く、「久美子」が低かった。自己美化性得点は「陽菜」「玲海」が高く、「久美子」が低かった。非キラキラネーム「陽菜」と洋風の響きを持つキラキラネーム「玲海」はやや近い評価を受けており、女性個人名に関しては、男性個人名よりキラキラネームか否かが印象評価に影響を与えない可能性が示された。以上疑問点 1 に関して、日本語母語話者はキラキラネームだけでなく非キラキラネームからもその持ち主にある程度共通した人物像を連想すると言える。特に、中高年に人気の個人名(「清」「久美子」)、洋風の響きを持つキラキラネーム(「騎矢」「玲海」)が共通した人物像を思い描かれやすいという傾向が示唆された。

疑問点 2 について、ある個人名から連想した人物像と、実際の年齢・職業に整合性がないと、その人物への勤勉性に関する評価が下がる可能性があることがわかった。非キラキラネームである「健太」「陽菜」の印象と年齢・職業情報との整合性が低く、事前情報の有無による非勤勉性得点には有意な差が見られた。一方、キラキラネームである「騎矢」「玲海」の印象と年齢・職業情報との整合性も低かったが、事前情報の有無に

よる非勤勉性得点には有意な差が認められなかった。キラキラネームに比べ、非キラキラネームが個人名の印象と実際の年齢・職業との整合性の影響を受けやすい可能性がある。また、有意差は見られないが、「4. 結果」に示した図1と図3から、「騎矢」の非勤勉性得点は事前情報無し条件に比べ有り条件で高くなっており、反対に「玲海」の得点は低くなっていることが見て取れる。洋風の響きを持つキラキラネームでも評価が異なっており、これが性別による違いなのか、別の原因によるものなのか、本研究の結果から述べることはできない。以上疑問点2に関して、特定の個人名の印象と実際の年齢・職業の間に整合性がないために、個人名の持ち主の印象評価が下がる可能性があることがわかった。

6. まとめと今後の課題

本研究は、個人名の印象と人物像（年齢・職業）の整合性に注目し、個人名の持ち主の印象評定を行った。その結果、日本語母語話者は①特定の個人名からある程度共通した年齢や職業を連想し、ある程度共通した印象評価をすること、②先行研究ではキラキラネームの社会的評価が低いことが指摘されているが、本研究ではキラキラネームか否かが個人名の持ち主の評価に必ずしも影響する訳ではないことがわかった。また、③ある個人名から連想した人物像と、実際の年齢・職業に整合性がないと、その人物への勤勉性に関する評価が下がる可能性があること、④非キラキラネームへの評価の方が個人名の印象と実際の年齢・職業との整合性の影響を受けやすい可能性があることもわかった。

しかしながら、本研究で扱った個人名の数は少なく、また被験者の数も十分とは言えないため、これをキラキラネーム、非キラキラネームの持ち主に対する社会的評価として一般化することはできない。また、本研究では学生世代の日本語母語話者を対象に調査を行ったが、異なる世代層を対象とした場合異なる結果が得られる可能性もある。今後、個人名と被験者を増やし、さらに調査を行う必要があるだろう。

謝辞

本研究は、JSPS 科研費 17J04518 の助成を受けたものである。

参考文献

- [1] 大藤修, (2012) 日本人の姓・苗字・名前 人名に刻まれた歴史, 吉川弘文館.
- [2] 上野和男・森謙二, (1999) 名前と社会: 名づけの家族史, 早稲田大学出版部.
- [3] Levitt, S. D., & Dubner, S. J., (2005) *Freakonomics: A Rogue Economist Explores the Hidden Side of Everything*, William Morrow: New York. [レヴィット, S. D & ダブナー, S. J (著) 望月衛 (訳, 2006), ヤバイ経済学-悪ガキ教授が世の裏側を探検する, 東洋経済新報社.]
- [4] 牧野恭仁雄, (2012) 子供の名前が危ない, ベスト新書.
- [5] ママ・スタジアム: けんたって名前おかしい? 子供が名前前でいじめられてます, <http://mamastar.jp/bbs/comment.do?topicId=2662413> (2017年7月5日確認)
- [6] ウンサーシュッツ, J, (2015) “キラキラネームといわないで!: 新しい名前に対する評価とその現象に取り巻く言説”, 立正大学心理学研究所紀要, Vol. 13, pp. 35-48.
- [7] Haysley, W. E., & Spencer, B. A., (1985) “The Effect of First Names on Perceptions of Female Attractiveness”, *Sex Roles*, Vol. 12, pp. 723-729.
- [8] Steele, K. M., & Smithwick, L. E., (1989) “First Names and First Impression: A Fragile Relationship”, *Sex Roles*, Vol. 21, pp. 517-523.
- [9] Barton, D. N., & Halberstadt, J., (08 June 2017) “A social Boubu/Kiki effect: A bias for people whose names match their faces”, *Psychonomic Bulletin & Review*, DOI: 10.3758/s13423-017-1304-x.
- [10] 伊藤資浩・宮崎由樹・河原純一郎 (2016) “奇抜な名前が社会的評価の印象形成に及ぼす影響”, 日本認知心理学会発表論文集, p. 140.
- [11] McWeeny, K. H., Young, A. W., Hay D. C., & Ellis A. W., (1987) “Putting names to faces”, *British Journal of Psychology*, Vol. 78, pp. 143-149.
- [12] 福田廣・福本純一, (2004) “個人識別属性と顔のマッチング”, 研究論叢. 芸術・体育・教育・心理, Vol. 54, No. 3, pp. 11-16.
- [13] 明治安田生命: 名前ランキング, <http://www.meijiyasuda.co.jp/enjoy/ranking> (2017年7月9日確認)
- [14] 山西良典・大泉純平・西原陽子・福本淳一, (2015) “人名の言語的特徴の分析に基づくキラキラネーム判定”, 日本感性工学会論文誌, Vol. 15, No. 1, pp. 31-37.
- [15] 大平英樹, (1994) “敵意的単語の無意識的認知処理と生理的覚醒が人物印象評定に及ぼす効果”, *The Japanese Journal of Psychology*, Vol. 65, No. 2, pp. 138-143.
- [16] 大森滋子, (2002) “印象形成における瞬目の役割-テレビアナウンサーを刺激人物とした場合-”, 仁愛大学研究紀要, Vol. 1, pp. 59-69.
- [17] 町一誠・樋口匡貴・深田博己, (2006) “話し手の方言使用と印象: コードスイッチの適切さと聞き手の出身地による影響”, *社会心理学研究*, Vol. 21, No. 3, pp. 173-186.
- [18] 半田淳子, (2012) “子どもの名づけに見られる日本文化の特徴”, 香港第九回国際日本語教育・日本研究シンポジウム予行集原稿, <http://www.japanese-edu.org.hk/sympo/upload/manuscript/20121013024031.pdf>, (2017年7月9日確認)